

アトムが 与えた？ 不意の事故

手塚プロダクション社長

まつたにたかゆき
松谷孝征

バチが当たった、そう思うのは心のどこかに疾しいところがあるからなのに、咄嗟にそう思うということはない、やはり疾しいところがあるからなのか。なにはともあれ、とても深刻な事態が発生したのだ。

先日タクシーに乗ったところ、運転手さんが話しかけてきた。

「夕方から雨の予報でしたが、降りませんね。もうすぐ梅雨明けですか、時のたつのが、早いですね」

私も同じ感慨をもっていたので、「そうですね、つい先日まで寒くて、桜が咲き、緑一色になって、一年なんてあっという間ですね」

などと私と同輩ということもあり、他愛なく話しているうち、右折するところを直進してしまった。

なぜこんなに慌ただしく生活をし

ているのだから、ひよっとして大方の人がそうすることが好きなのかも、などと思ってしまう。嫌なら逃げ出す道もなくもないのだから。これは冗談にしても、ここから離れるのが不安なのでしょう、私も含めて。

そんな中で、私はある講座を受けることにした。「レクリエーション指導員養成講座」。病人や老人に対する医療、福祉に携わる人が大半、

あとは教育関係や文化イベントへのボランティアを指す人が受講生だ。

第一回目はレクリエーションの歴史や理論、実践の講義だったが、大いに勉強になった。得てしてボランティアをする人間が落ち入りやすいのは、自分が満足してしまうケースだという。二回目も教室での講義。

そして先日、運命の第三回目の講座、ゲームの実技が行われた。大縄跳びをしている時、縄の中に入ろうとかけ出した瞬間、左足首にドンと木刀



でたたかれたような衝撃を受けた。

私は、縄の中へ入った途端、転がり倒れた。だれかがいたずらしたのかと後ろを振り返ったが、誰もいない。左足アキレス腱にぶい痛み、やつてしまった。アキレス腱断裂。

来年選歴を迎えるというのに、若い人たちと張り合うバカがいるのか？会社の連中や家族の台詞が手にとるようにわかる。

「一緒に講座を受けている仲間の邪魔にならな

いか、今週の仕事はどうしよう」頭の中は妙に冷静だ。救急車に乗せられ、

ようやく怪我が心配になってきた。手術即入院。全治四カ月。

子どもの頃盲腸で入院したことがあったが、それ以来初めての入院だ。

久しく新聞のテレビ欄すら見たこともなかった私が、昼間からしっかりとテレビをみるようになった。脳梗塞の特集が放送された。みな前兆があるらしいのだが、驚いた。チェック

五項目、全て自分に当てはまるのだ。

実は、自社のことで恐縮だが、二〇〇三年四月七日が「鉄腕アトム」の誕生日だったということもあり、当社は全国でさまざまなイベントを開催した。新たにテレビシリーズもスタートさせた。そんなこんなで、

私は今年に入ってから土日もなく飛びまわり、夜のつき合いも毎晩続いた。身心ともかなりストレスがたまっていた。

そう、この事故をむしろ幸いと思わなければいけない。脳梗塞や脳の血管が切れることを思えば、アキレス腱が切れたほうがどれほどよいか。文頭にバチが当たったと記したが、これはもしかして、罰どころか天が

私に恵みを与えてくれたのだ。そうにちがいない、私にはなんら後ろめたい所などない、断じてない！

人生これ「塞翁が馬」と考えよう、忙しくて忘れていたことを、ゆっくりに思い出し感じよう。ゆったりとした時間の流れの中で。でもやっぱり仕事が気になる。情けないねえ。

(67年法学部卒。85年から現職)